

木造地藏菩薩立像 1 軀(如願寺)

木造地藏菩薩立像

もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう

有形指定文化財

美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 如願寺(によがんじ)

所在地

大阪市平野区喜連

紹介

法量：像高 91.2cm



如願寺は喜連に所在する真言宗寺院であり、寺に伝来した大永 7 年(1527)の縁起を、江戸時代中頃に写した記録によれば、聖徳太子の創建、弘法大師が再興と伝える。髪際相と白毫相は現状ではあらかず、腹前には裾の結び紐をあらかず。寄木造だが体部の根幹はほぼ一木造である。細く切れ長の眼、ふくよかで小振りの口唇、丸みを帯びた頬、穏やかな面相を示す。浅い彫り口の上品な衣文には作者の優れた彫技がうかがえる。なで肩だが堂々とした体軀で、体奥はさほど深くない。白土下地の彩色が良く残る。

全体に定朝様の特色を顕著に示す像で、平安時代後期、12 世紀の製作と考えられる貴重な像である。